

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：逗子なないろ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：伊藤 郁子	定員（利用人数）：110名 （利用人数:119名）
所在地：〒249-0005 逗子市桜山6-18-22	
TEL：046-854-5175	ホームページ：http://www.kanagawa-doen.jp/zushi-nanairo-hoikuen/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会	
職員数	常勤職員：24名 非常勤職員：8名
専門職員	施設長 1名 主任 1名
	保育士 23名 保育補助 3名
	栄養士 1名 調理員 3名
	事務員 1名 業務員（障がい者雇用） 1名
施設・設備の概要	保育室 7室 トイレ 9ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1ヶ所
	面談室 1室 ホール 1ヶ所
	沐浴室 1ヶ所 調乳室 1ヶ所
	職員休憩室 1室 ロッカー室 1室
	園庭 有

③ 理念・基本方針

【保育理念】

1. 児童福祉法に基づき、子どもの人権や主体性を尊重するとともに、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的にすすめる。
2. 地域社会との連携を図り、全ての子育て家庭の支援をおこなう。

【保育方針】

- (1) 安全・安心・安定の中で、子どもたちが伸び伸び活動できるよう援助する。
- (2) 子どもの気持ちを受容して、自己肯定感が持てるように配慮する。
- (3) 遊びなどの体験をとおして、「非認知能力」「生きる力」が身につくよう努める。
- (4) 保護者に寄り添い、子どもの成長を共有して子育てを支援する。

【保育目標】

- ・ きちんとあいさつする子ども
- ・ 自分で考え行動する子ども
- ・ 友だちと楽しくあそぶ子ども
- ・ 思いやりのある子ども
- ・ 感性豊かな子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

緑豊かな閑静な住宅地の中、近隣には様々な公園があり、自然に恵まれた環境の中で産休明け保育、障がい児保育、延長保育、一時保育を行っています。

子どもたちの最善の利益を考えながら、感性豊かに笑顔で過ごせるよう一人ひとりの育ちを大切に、保護者に寄り添い、安全、安心、安定した保育が提供できるよう日々の保育に取り組んでいます。また、関係法令や諸規定を遵守した保育所運営をしています。

・食育 栄養士が季節の食材や行事食を考えて1か月毎日違った献立を立て、自園での調理で給食を提供しています。また、園庭の畑やプランターで野菜を栽培して、子どもたちが種や苗を植え、水やり、観察、収穫を体験しています。収穫した野菜は、給食に出したり、手で触ったり、製作でスタンプを押したり、調理する様子を見たりして年齢ごとに保育に取り入れるなどして、食への興味・関心が育つ取り組みをしています。

・3・4・5歳児の幼児は、縦割り保育で2つのグループに分かれて夏まつりや製作、遠足等に参加した。また、そのグループの中で3・4・5歳児1名ずつになり、「きょうだいすずめ」のリトミックを行っています。

・体操教室 外部講師（コスモスポーツクラブ）が行うカリキュラムによる、マット、跳び箱、鉄棒、縄とびといったものを使用して、からだを動かして行う体操を2歳児から5歳児まで取り入れています。

・英語レッスンの実施 近隣の英語教室（ホブスコッチ英会話）より外部講師が2名来園して、3歳児より毎月の目標に沿って、英語でのあいさつ、歌、ダンス、絵本の読み聞かせを行い、楽しく英語に親しんでいます。

・雨天でも過ごせる広いホールや屋上スペースもあり設備が整っています。

・駐車場7台スペースがあり、小さなお子様を連れての登降園に役立っています。

・法人内に10施設の保育所があり、施設長会議、主任会議、保育リーダー会議、栄養士会議等で情報交換や意見交換できる場があります。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年9月27日（契約日）～ 令和5年4月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの気持ちを受容した保育を行っています

保育理念、保育方針に掲げている「子どもの主体性を尊重し、子どもの気持ちを受容した保育」が展開されています。職員は子ども一人ひとりの育ちや心を大切に、子どもの話を先ず聞いて受け止め、それに沿った言葉がけをしています。せかず言葉を使わないことも職員間で確認し合っています。乳児の欲求や表現に対して、言葉を添えながら温かく接しており、子ども達は受け止めてもらっている安心感から、表情も明るく笑顔が多くみられ、自己肯定感を持ち、生活や遊びを楽しんでいます。

2)全職員が連携を密にして保育に取り組んでいます

子どもの最善の利益を考え、保育方針、保育目標に沿った保育が進められるよう、職員は連携して安全、安心、安定した保育を行っています。職員はチームワークが良く、自主的な話し合いを多く持ち、より良い人的、物的な環境作りや子どもの24時間サイクルを考えた保育提供のあり方等、保育内容の向上を目指しています。施設長、主任を中心に職員にも笑顔が多く見られ、職員同士のコミュニケーションもよく取れている事がうかがえます。この職員間の信頼関係が子ども一人ひとりを大切に

た保育に反映されています。

3) 地域の子育てニーズに応じたサービス提供に取り組んでいます

法人理念には「地域社会と共生していきます」、保育理念には「地域社会との連携を図り、すべての子育て家庭の支援をおこなう」、運営規程には地域育児センター事業として「育児・子育て相談」「園庭開放」「体験交流」「世代間交流」を掲げ、地域との関わり方について基本的な考え方を明示しています。園庭開放や一時保育、地域の未就園児対象の子育て支援事業「こあらクラブ」を開催し、子育てに関する相談を受け、子育て世帯の抱える悩み等を把握して地域の子育て支援に取り組んでいます。

4) 職員一人ひとりの目標管理制度の導入が期待されます

法人が目指す保育の実現に向けて、園全体の目標が明確にされています。今後は目標管理制度を導入し、目標管理シート等を用いて項目、水準、期限を明確にした職員一人ひとりの目標を設定すると共に、進捗状況や達成度の確認を行うなど、職員の育成に向けた取組が期待されます。

5) 保育の質の向上に向けた園内研修の充実が期待されます

施設長、主任が研修計画を策定し、職員は法人の階層別研修、キャリアアップ研修、外部研修などの専門的知識・技術を高める研修、担当業務関連の研修等幅広い研修に参加しています。研修に参加した職員は報告書を記載し、回覧していますが、外部研修を受けた職員の園内研修等での発表の場がありません。園内研修の計画的、効果的な実施に向けて、園内研修を組織的に取り組むことが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回初めて第三者評価を受審いたしました。受審するにあたり、マニュアルや保育内容の見直し、検討を職員と共に行ったことで、職員一人ひとりが保育を振り返り、考えて保育をしていく良い機会となりました。

評価調査者の方に良い評価をいただけたことは、職員にとって励みになり、自分たちが行ってきた保育を肯定的に捉えていただき自信に繋がりました。改善点については、今後、職員の育成と園内研修の充実に取り組んでいきたいと思えます。

保護者の皆様には、お忙しい中、アンケートにご理解ご協力いただきましたこと改めて感謝申し上げます。また、コロナ禍ということで、社会情勢や保育園の生活も大きく変わった中での受審に不安もありましたが、評価機関の皆様には、丁寧な対応、評価をしていただき感謝いたします。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり